



# 今年の抱負

「意欲を  
新たに」

森永泰市  
土 手



新年あけましておめでとうございます。

今年「丑」年を迎え自分にとっては五度目の干支となり、還暦（天地の運動が元の位置に帰ること）を迎える年になりました。私もこれから高齢者の仲間入りをする節目の年になる訳ですが、全国的にも若者がだんだん少なくなり、いずれは本格的高齢化社会の時代が来る事が問題になっております。

自分もこの年代に入ったかと思うと一抹の不安を感じますが、これには負けておられません。

これからの人生を一日一歩健康に留意して有意義に暮らせるよう努力精進したいと思います。又、最近のめまぐるしい世相の動きの中で、それに対応出来る体力と精神力、生涯学習にと意欲を新たに微力乍ら三隅町発展につくせたらと年頭を新たに感じます。

「心に  
ゆとりを！」

河村民子  
野 波 瀬



「干支は？」  
「うし」  
「ふーん、そんな感じね。」

と良く言われます。良く食べ、動きは鈍く、そして、体型から十分に想像できるからでしょうか。いくつになっても、自分の干支には愛着があり、その年を迎えることは何だか嬉しく、特別な節目にしたい気がします。

独身時代は青年団活動に燃え、結婚後は、子育て、家事、仕事にと無我夢中。いつも時間に追われ、心身共にゆとりのない生活。そんな中で、3人の子供たちもそれぞれに親離れて行きますが、その子らの成長に伴い両親をはじめ社会の人々から受けた恩を痛感する毎日です。

40代後半からは“世話ざかり”とも言われ、もっと忙しくなると思いますが、まず健康に気をつけ、うしのような大きく優しい目で家族やまわりの人に接したいものです。また、多忙な中にも、たとえわずかでも自分を見つめ直す時間をつくり、心にゆとりをもちたい……と次々に、丑年の抱負が頭の中でふくらんでいきます。

「健康な日々」

山中敬子  
中 村



老後を故里でという夫と帰ってきた。外から戻った者としてよい面も悪い面も目につく。環境のよい町にどの取組もなされつつあるが、個の集まりが地域社会で、各自の自覚が大切なのである。

テレビで、戦後ソ連で日本人捕虜が建設に従事した劇場が、二度の地震に他の建造物は倒れたがこの劇場は今も健在で町の人は勤勉な仕事振りに感動したと報じた。身は囚われ乍ら立派な仕事を異国に残した当時の日本人の心意気を偲ぶ。勤勉の言葉さえ失われつつある今の世である。小さい事乍らお役に立てばと思い、郷土誌「美須美」や清風記念館などのパンフレットを知人に送り紹介している。訪れた友人は都会生まれの私の田舎の生活を案じていたが山の樹が1本1本見え川もあるよい土地と喜んでくれた。生まれた都会は故郷、縁あって住む三隅は「ふるさと」と私は呼ぶ。「人生はその日その日のこと」と言うが生を受け早や72年、神仏の御加護を思う。今年も健康で過ごしたい。

「己を知ってもらい  
覚えてもらう」

内山 芳之  
豊 原



三度目の「丑年」を迎え、年頭にあたり常日頃より心掛けていながら実行できないことを述べさせていただきます。

それというのは「人を知り、人を覚える」ということです。そんなことかと思われるでしょうが、この歳になっても一番の苦手なことなのです。総理大臣経験者の中には、「一度人に会ったら絶対に忘れない。人を覚える名人」と呼ばれたくらい記憶力のいい人がいたそうですが、そこまでは及ばないとしても、出来ることなら今の自分を変えたいと思っています。

仕事だけに限らず、プライベートな部分でも大切だと感じるようになりました。家庭では一男一女に恵まれ、上の子も昨年保育所にお世話になるようになって、一気にたくさんの方々とお近づきになれたのに、今一歩踏み込んでいけないのもこの「人を覚える」能力の欠けが遠因にあるのでは、と反省しきりの昨今です。

「人との出会いこそが自分自身の財産となる」といった言葉が重みをもって感じられる今こそ、より多くの方々へ「己を知ってもらい覚えてもらう」ことを今年の目標として、様々なジャンルのサークル、グループ、団体のみなさんとのふれあいを大切にしながら、その活動に参加していきたいと思っています。そして結果的に三隅町の発展に寄与できればと願っています。